

# みんなの居場所

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面も、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年12月12日(金)

### 【感想】感動は大変の後やってくる。

この時期、懐かしさを感じ出すことがあります。それは書道「のめり込んた時代」の事です。大きな展覧会の結果発表の時期だったからです。

私は字を書いて頼まれることが多く、「二つ返事でサッと書くの、皆んな驚かれますね。」「精神統一をして書く。」「とが、」書への時間はかかる。「とが聞きますが、私はまだ発展途上ですから、枚数をこなして、即ち徹底的に書きまくることでしか進歩がありません。」「そう言えば、書道はスポーツに似ています。限界まで自分を追い込み、もう駄目だと思ったその先、何となく納得のいくものが書けるからです。不思議ですよね。現在、私が、賞状やその他の文章を「サッ」と書いて理由は、多分書いて書いて書きまくってきたので、基本が体に叩き込まれているからなのだろうと思います。自分の作品を仕上げる時私は何をするかと言います。それは仲間と楽しい時間を過ごす。少しお酒を飲むようにします。」「あら不思議。」「フックスした良い感じの作品ができるのです。」

展覧会等の作品を仕上げる時の辛さというなら、経験した者でないと分かりません。一つの展覧会に作品を提出するのは、私は最高で8000枚書いたことがあります。(少し自慢しています)。この時、熊田書道展で特選賞を受賞しました。紙のサイズは縦が2メートル30センチ弱、幅が60センチです。この紙に約50文字の漢文を書く訳です。平日は一日に平均で100枚書ければ良い方です。左手を置いた状態で書くので、毎日書いている左手首が痛くなってきます。左手首が痛くなると、今度は腰が痛くなってきます。この状況になると後は精神戦で、「いいえ、いいえ」と妥協してしまったり、良い作品は生まれません。最後は何を書いているのか分からなくなってしまう。そして私の場合最後の最後まで「こんな文章だったか、こういうような形だったか、完全に覚えてしまっています。そうやって後は時の運いがあります。気持ち、墨と紙の相性、体力等々、全てが最高の一品で仕上がった時、良い作品が仕上がりします。そして、最後にお酒。こんなことを書いて、書道の大先生方に叱られるんですね。

何でも作品作りはとにかく大変です。何しろ、自分の分身を作るのと同じですから、妥協などできる訳がありません。そしてこれだけの「大変さ」があっても結果が良かった時、作品を観て人が喜んでくれた時、初めて感動がやってくるのです。これは私が書道を通して学んだことです。

「感動は大変の後やってくる。」「何しろまだではまぐさと思いませんか?」大変だなあと感じて、最近あります。感動や達成感を味わいたいのと思つたら、少しだけきつい思いや大変さを体験しないといけませんね。しかも、その様なことを積み重ねないと、人間的な成長が望めないの、絶対に大変な目を体験すべきです。小学生の時からこのような経験をさせるためにはという視点で子ども達に接しなければなりません。学習もそうです。こういった、学校という場所では、子ども達に少し負担をかけ、乗り越えさせていくことで成長を支援するということだと思っています。大変さが人を磨き育てると思つてほしいが…。

### シリーズ「自分を語る」#50

さて、この週目に入り、少しだけ味のあるものを食べるようになってきました。それは白身の魚です。当時の私にとっては凄く美味しかったです。とにかく、病気を治すために必死でいたから、この馳走が美味しくてたまにはいいかなと意識していました。

少しずつ固形物を摂るはじめて頃、確か12月の終わりの頃に事件は起こりました。当然のことながら、フルコールの摂取はドクターストップがかかっていたので、私の体からはフルコールが完全に抜けて、健康そのものだと思っていました。当時の私は、実は煙草も吸っていました。が、これもドクターストップで吸っていませんでした。最初の診察で「澤田さん、死にたくないなら煙草はやめたほうがいいよ。フルコールは付さないもめだろ」という時期が来たらOK出ました。」「と言われていて、それを機に煙草は現在も吸っていません。その様な状態になったから、健康になってきたという錯覚に陥っていたのかも知れません。

夜のゆとりたした時間を過ごしていた時のこと、年が明けたら、フルコールOK出るかなあ。」「と淡い期待を抱きながら過ごしていた。また、あの吐き気が襲ってきたのです。本心に急な出来事でした。併せて、「みぞおち」をピンポイントで押し込まれるような痛みがありました。前回よりもひどいという印象でした。これはたまたまではないと思い、その場で病院に電話をかけました。当然時間外なので受け入れられないだろうと思いましたが、朝早くならOKというのでした。電話で指示を受けたのは「処方していた薬をバリエットという薬があるのあれば飲んでください。このように途中で別の薬に代わっていたので、少し残っていたのが幸いしました。この薬を飲んだら、30分ほどにわけて我慢できない痛みは治まりました。時計を見ると午前3時頃で、まだOKされた時間まで4時間弱あります。このまま痛みが治まっていくという感じが、時間を経るにつれて、5時半を過ぎた頃に病院へ行きました。痛みは何となく治まったものの、断続的に続く吐き気をどうも切れません。病院では「袋」を持ち歩いての診察でした。そして、すぐに「胃力マフ」を飲むことになりました。前回同様の注射を行い、数時間後、先生の説明を聞くことになりました。

【澤田さん】

「澤田さん、前回と同じような潰瘍ができています。そして、もしや」と思い検査をしたところ、ピロリ菌の陽性反応が出ました。これから除菌治療をします。除菌が成功すれば再発はかなりの抑制できます。ただ、この除菌治療は失敗することもあります。私の言の通りに薬を服用して、食事等もきちんとコントロールしてください。」

「なぜ再発したのですか?」

「澤田さん自身の病変に対する抵抗力が落ちていたことが原因と考えられます。」このとき処方された薬も胃酸を完全に止める薬と除菌薬だったと思います。これを数週間飲み続け、除菌ができたかどうかも一度検査を行うそうです。私はもうとにかく治したいという気持ちで、真面目に薬を飲みました。もう、食べるのが怖くて怖くてこの時がかなり痩せてしまっていました。

(つづく)